

ビフォー  
アフター

3年生0学期

# 学習計画・記録表

自校の指導ツールを他校の教師とともに検討し、各校の生徒特性に合った形へ改善を図る本コーナー。今回は、2年生3学期、いわゆる「3年生0学期」の学習スタイルの確立を目指した「学習計画・記録表」について検討する。

検討会メンバー



大分県立  
中津南高校  
**遠藤源治**  
えんどうげんじ

教職歴15年。同校に赴任して4年目。3学年担任。進路指導部副主任。理科。「なぜば成る」をモットーに夢に向かって挑戦し続けるタフな生徒を育てたい」



群馬県立  
下仁田高校  
**高橋真人**  
たかはし まさと

教職歴14年。同校に赴任して8年目。教務主任。数学科。「物事に謙虚に、楽しく取り組む大切さを、自らの姿を通して生徒に教えたい」



富山県・私立  
片山学園中学校・高校  
**森内梨絵**  
もりうち りえ

教職歴7年。同校に赴任して8年目。進路指導部長。国語科。「目の前の生徒は日本の未来。教師はその可能性を開き、養い育むことが仕事です」

## 検討

### 受験生への切り替えに向けて、 学習スタイルを検証する機会に



**遠藤** 3年生0学期になると、受験への意識が高まってくるのと同じ

時に、やるべきことの多さに困惑し、勉強への意欲を失いそうになる生徒も出てきます。特に、塾に通う生徒の中には、学校の課題に塾の勉強が上乗せされ、1日の学習量が膨大になってしまふ者もいます。そうした生徒が、やらなければいけない学習を列挙すると、実現性のある計画はならないのが現状です。



**森内** 3年生0学期のテーマは、やらされ感からの脱却だと私は思

います。「その課題がどんな力の育成につながるのかを考えながら取り組もう」と、この時期の生徒には話

しています。受け身の学習のままだと、勉強時間を増やしさえすれば力がつくと誤解したまま3年生4月を迎えてしまい、効率的な学習に結びつきません。成績中・下位層の生徒の中には計画倒れになる生徒もいますが、**3年生0学期はまだ失敗してもよい期間ですから、失敗や成功を繰り返しながら、学習の進め方を見つめ直す機会にしてほしいですね。**

のリズムができていますから、成績中・下位層の生徒を念頭に置き、**自分の学習の軸をつくらせることを大きな目的とした方がよさそうです。**



**高橋** 3年生0学期

は、これまでの生活リズムを振り返りながら今後を見据える時期だと考えています。ほとんどの生徒が就職を希望する本校においても、生活リズムや時間の使い方について見直すよい期間です。就職すると、毎日始業時にその日にすることを挙げ、達成度をチェックする職場も少なくありません

ビフォー アフター

大分県立中津南高校 遠藤源治先生 3年生0学期「学習計画・記録表」

次に、曜日ごとに学習する科目・内容（予習、小テスト、復習など）を決め、1週間の学習計画を立てる。いったん担当が回収し、コピーして返却。生徒は自宅の机の前に貼り、実際に学習した時間を記録する。



ねらいと機能

すべきことを把握し、1週間単位で学習内容を考えさせる

3年生0学期に、遠藤先生は生徒に学習計画・記録表を作成させている。これは、学習計画表で教科・科目の優先順位を整理した後、生活時間割で1週間単位でいつ、何を、どれだけ勉強するのかを考えるものだ。3年生になる前に、日頃の学習内容を整理することで、焦ることなく受験態勢に切り替えていくことをねらいにしている。

まず、生徒はこの「1月～学習計画表」を記入し、得意・不得意や過去の模試の成績などを踏まえて、3年生0学期に取り組む内容を教科ごとに整理する。予習・復習や課題といった普段の学習と、苦手克服や得意伸長のための+aの学習の2つの視点で考える。

課題と解決策

- 1 学習量の多さに生徒が意気消沈しないように、「特に取り組むべきこと」の優先順位を明確にさせる。
- 2 時間の使い方など、学習の進め方を見直せる機能を盛り込む。
- 3 自分が立てた計画をクリアした達成感を味わえるようにする。

ん。企業の採用担当者からも「時間を管理したり、優先順位を判断したりする力はとても大切」とよく聞きます。隙間時間の活用など、時間を上手に使う力をつけさせたいです。

遠藤 指示されたまま、すべてに満遍なく取り組もうとすると、生徒はパンクしてしまうかもしれません。教科バランスを考えさせながらも、今何をすべきか、優先順位を明確にすることが重要だと感じました。

高橋 学習量の多さにくじけることなく、勉強へのモチベーションを維持できるような教師のサポートも大切です。教師が生徒一人ひとりの成功や失敗を見守り、少しずつ達成感を持てるシートにする工夫や配慮が必要です。

学校プロフィール

大分県立中津南高校

- ◎全日制/普通科/共学/1学年約2000人
- ◎2016年度入試合格実績(現役のみ)/国公立大は、東京大、京都大、九州大、大分大などに124人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大などに延べ247人が合格。

群馬県立下仁田高校

- ◎全日制/普通科/共学/1学年約60人
- ◎2年次からアドバンスコース、ビジネスコース、カルチャーコースの3コースに分かれる
- ◎2016年度進路実績(現役のみ)/4年制大・短大進学2人、専門学校進学14人、就職32人。

富山県・私立片山学園中学校・高校

- ◎全日制/普通科/共学/1学年約1000人
- ◎2016年度入試合格実績(現浪計)/国公立大は、東北大、東京大、富山大、名古屋大、大阪大などに56人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、早稲田大、同志社大などに延べ299人が合格。

検討会で明らかになった課題を踏まえ「学習計画・記録表」を改良! 次ページで紹介します。

# アフター

**学習計画・記録表** 2年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

12月 11日 ~ 12月 17日

この期間の重要イベント **3年生を送る会ミーティング**

生徒にあらかじめ、その週の主なイベントなどを書き込ませる。事前に予定を見通すことで、学習時間の確保がしやすくなる。

学習内容の記録										学習時間の記録																								
曜日	力を入れたい教科・科目					やれたらよい教科・科目																												
	英語										7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6
日	<input type="checkbox"/> 予習	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(Time grid with diagonal lines for unavailable periods)																							
	<input type="checkbox"/> 長文1ページ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																								
月	<input type="checkbox"/> 模試見直し	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(Time grid with vertical lines for available periods)																							
	目標 120分	目標 分	目標 分	目標 分	目標 分	目標 分	目標 分	目標 分	目標 分	目標 分																								
土	結果 分	結果 分	結果 分	結果 分	結果 分	結果 分	結果 分	結果 分	結果 分	結果 分																								
	結果 分	結果 分	結果 分	結果 分	結果 分	結果 分	結果 分	結果 分	結果 分	結果 分																								
合計	目標 分	目標 分	目標 分	目標 分	目標 分	目標 分	目標 分	目標 分	目標 分	目標 分																								
	結果 分	結果 分	結果 分	結果 分	結果 分	結果 分	結果 分	結果 分	結果 分	結果 分																								

左側には、力を入れたい教科・科目を軸に、すべきことを箇条書きにして (to do リスト)、目標とする学習時間を1週間分記入。教師は、生徒個々が書いたベースとなる記録表を数週間分コピーし、生徒に渡す。生徒は、すべきことができたなら□にチェックを入れ、実際に学習した時間を結果の欄に記録する。また、日によって学習内容が変わる場合があるため、適宜、修正・見直しをさせる。

右側には、1日の記録をつける。あらかじめ勉強ができない時間帯 (すべきことが決まっている時間帯) に斜線を引いておく。生徒は1日を振り返って、自由に使える時間帯で勉強ができた時には、その時間帯を赤ペンなどで塗り潰していく。まず、自由に使える時間を可視化させるのは、1日の中で勉強時間を確保していく習慣を身につけさせるためだ。

「高橋先生の提案を生かした。」

2つに分かれていた学習計画表と記録表を1つにまとめ、記入する生徒の負担を軽減。また、「力を入れたい教科・科目」を生徒に挙げさせ、それについてまず学習計画を立てさせるようにした。1週間の計画を立て、実際に学習した内容をチェックし、学習にかかった時間を記入させる。それらを数週間分蓄積・保存していくことで、面談の資料としても活用することができる。

計画していた学習量をこなせたかどうかだけでなく、1日の時間の使い方にも着目させることを重視した。「学習時間の記録」において、あらかじめ、授業や部活動、塾、食事、睡眠といった自学による勉強ができない時間帯 (すべきことが決まっている時間帯) に斜線を引くなどし、自由に使える時間帯のうち実際に勉強できた時間帯を赤ペンなどで塗り潰して、記録させるようにした。そうすることで、自由に使える時間をどのくらい勉強に充てられたか可視化できる。「赤ペンで塗り潰した部分が増えたら、隙間時間を活用できるようになった」ということ。そういうところにも目を向けてあげたい」と、生活習慣の見直しを重視する高橋先生の提案を生かした。

**改訂後のねらいと機能**

**学習計画表と記録表を一体化させてより機能的に**

活用

優先すべきことを明確にし、軸のある学習スタイルを確立させる



**遠藤** 力を入れたい教科がどれなのか、実際にどのくらい勉強でき

ているのかを常に意識できる学習計画・記録表へと改訂したいですね。



**森内** 時間の使い方、学習への取り組み方に課題を持つ生徒が少な

くないのであれば、学習計画・記録表を使って、3年生4月になる前に、生徒に自分の課題を見つけさせたいです。大きく飛躍するために、特に力を入れたい教科とそれ以外の教科に大別すると、計画倒れやすることの多さによる勉強へのモチベーション低下を防ぐことができるでしょう。「計画通り進めることは大切だけれど、自分に合っていないと判断したら、適宜、修正・変更していい」と説明することも大切です。



**高橋** 自分が立てた計画の修正や変更は決して悪いことではないと

生徒に周知した上で、達成したこと

は自分でも一目で分かるようにしています。例えば、学習時間は目標と結果の2つの欄を設けてはどうでしょうか。また、生活時間割に1日ずつ、勉強した時間帯を記録していくことも、1日の使い方を検証する意味でも、効果的だと思います。計画は立てたら終わりではなく、見直し、修正することが重要だということ、計画を修正する力は社会人になった時に必要だということを伝えたいです。

**遠藤** すべきことをto doリストのように挙げておき、できたところにチェックを入れていけば、達成感を得やすくなりそうです。また、学習計画・記録表の記入への負担感を減らすために、生徒が計画したものは、あらかじめ数週間分を教師が複写し、まとめて渡しておくようにしたいです。生徒はそれらに記録していき、記



録が済んだ記録表は冊子のように保存させるとよいでしょう。また、平日にあまり勉強せず、土日のために込んでしまうことがないように、1週間のイベントを見通した上で、計画と記録を日曜日から書き始めさせていただきます。「この週は行事で忙しいので、日曜日にたくさん勉強しておこう」といったように、時間管理の指導がしやすくなると思います。

**高橋** 生徒に記録させたものは、私たちも面談などの資料として活用したいですね。生徒が掲げた目標を少しでもクリアできている時は、しっかり褒めてあげたいです。教師に見てもらっているという安心感は、モチベーションの維持につながりません。

**森内** そうですね。その上で、自分の軸に従って1週間を過ごせるようになれば、たとえ少々計画通りにいかないことがあっても、自分なりのやりがいを感じられるのではないのでしょうか。教師の手が徐々に離れていっても、自信を持って学習に臨めるようになるはずですよ。

**遠藤** 力を入れたい教科・科目への取り組みを、生徒も担任もきちんと把握することができるようになったと思います。面談などでは、双方から取り組みの進捗がスムーズに話題に上がるとよいですね。

活用の流れ

1

生徒に、ベースとなる1週間の学習計画・生活時間を記入させる。

2

教師は、生徒個々が作成した計画・記録表を数週間分コピーし、渡す。

3

生徒は、実施したことや学習した時間を記入していく。

4

教師は、記入された用紙を基に、面談や声かけを行う。